

## [Discussion]

〈仮説①〉: Congruent 条件では、どちらの年齢群でも自伝的記憶の検索が向上する。

→仮説は支持された。

☆経験当時と類似した姿勢をとることで、過去の経験の記憶は思い出しやすくなる。

〈仮説②〉: 時間において自由再生課題を行った場合、成績には年齢による違いや Congruent 条件による効果は見られない。

→一見、仮説は支持されていないようであった。

→なぜなら、二週間後の電話での再生課題で…

- 自由再生では、Congruent 条件で再生された記憶の方が、Incongruent 条件で再生された記憶より想起されやすかった。
- 自由再生で、大学生群では高齢者群に比べて Congruent 条件による効果が高かった。

→Congruent 条件による効果も、年齢による違いも現れたのでは？

高齢者の健忘率の高さも影響しているのでは？



**筆者の主張**: どちらの年齢群においても Congruent 条件による効果が働いているし、高齢者の健忘率の高さも結果に影響している。

しかしそれ以上に、過去の経験の追体験による効果が結果に強く影響している！

### 〈本研究の持つ弱点の検討〉

#### ①Demand effect (要求効果 cf. Demand characteristic, 要求特性)

→実験が進むにつれ、特に Congruent 条件において、被験者は特定の姿勢を取るとその時点ですぐに記憶の検索、想起を始めてしまうようになり、反応時間が短くなってしまったのではないか。

#### ②Practice effect (練習効果), Incongruent 条件による検索妨害効果の増加

→実験が進むにつれ、Incongruent 条件においても、練習効果によって反応時間が短くなったり、あるいは Incongruent 条件による検索妨害効果が増大していった結果、反応時間が長くなったりしたのではないか。

⇒①、②ともに、第1試行と最終試行の反応時間の平均値をt検定にかけたところ、差は有意でなかった。

☆要求効果、練習効果ともに有意なものではなかった。

### 〈結論〉

- 自伝的記憶の検索、再生は、記憶当時と類似した姿勢をとることで促進される。その効果は年齢を問わず発生する。
- 今回の実験は「符号化特定性」の考えを支持するものとなった。
- 記憶と類似した姿勢をとることによる記憶検索、再生への効果は、記憶の保持までには及ばないと思われる。  
→長期間の保持に影響するのは、「検索、再生の際にどれだけ記憶を追体験したか」である。
- 我々の認知システムは、「身体化認知」説に沿っていると考えられる。